

CM から見る家庭内でのジェンダーロール

性役割を決めつけるかのような CM は、社会に一体どのような影響を与えているのか、その背景にはどのような問題が隠されているのだろうか。本論文では、女性を応援したつもりなのに「性役割」の固定化・強化と受け取られ問題視されたものを対象とし検討する。戦後の日本社会に広まった標準的な家族観（正規雇用の夫と家事・育児専門の妻）が要因であると研究された例から、現在の家族観の在り方やそこにいたった背景を CM の事例から見る。そこで本論文では、性役割を決めつけるかのような CM 表現が世に出た背景、批判された理由をひもといていくことで「男性らしさ」「女性らしさ」専業主婦や家事労働分担、家庭の在り方などをジェンダー論の観点から、問題視されたジェンダー要素が描かれている CM を取り上げ、どのような点が問題視されたのかを検討した。その結果 CM が批判の的になった理由は、それまで蓄積され続けた「夫は外で働き、妻は家事・育児」という考えから抜け出せなかったからだ。批判される CM とそうでない CM の評価を大きく分けたのは、多様性の考え方の違いであり、CM が目指す方向性は、時代の『半歩先』を描くことであり、批判が集まった CM は、作り手側の意識が社会の意識から取り残され、時代遅れな価値観のもとで制作されたものであったと考えられる。女性視点からみた性役割について考えてきたが、それは男性も同じで「男性らしさ」という性役割を決めつけるかのような CM 表現が世に出た背景、批判された理由をひもといていくことで、家庭内のジェンダーロールについて、より詳細な検討が望まれる。